

第Ⅳ部 第三者評価（外部評価）の実施状況

第Ⅳ部

第三者評価（外部評価）の実施状況

本学においては、平成5年度から第三者評価（外部評価）が積極的に実施されており、平成13年度の第三者評価（外部評価）の実施状況については、以下のとおりである。（ただし、大学評価・学位授与機構による評価は、平成12年度着手分である。）

また、平成14年度にも法学研究科・法学部、医学部附属病院、歯学部附属病院、農学研究科・農学部、水産科学研究科・水産学部、電子科学研究所、遺伝子病制御研究所、先端科学技術共同研究センターにおいて、実施が計画されている。

なお、これまでの実施状況については、巻末の点検評価関係資料の中に「北海道大学における第三者評価（外部評価）実施状況一覧」として、とりまとめている。

【平成13年度の実施状況】

I 大学評価・学位授与機構による第三者評価

1 北海道大学（全学）

1 評価区分

全学テーマ別評価

2 テーマ及び対象分野

1) 教育サービス面における社会貢献

2) 教養教育

3 評価方法

書面調査・ヒアリング（※教養教育は2年計画の初年度にあたり、実状調査のみ）

4 対応組織

点検評価委員会大学評価事業専門委員会

5 評価資料

1) 全学テーマ別評価自己評価書「教育サービス面における社会貢献」

2) ヒアリング持参資料

6 評価の結果

平成14年3月に大学等及びその設置者に通知されるとともに、ウェブサイトへの掲載により公表される。

7 評価結果の活用

本学の教育サービス面における社会貢献活動等に活用

2 医学研究科・医学部

1 評価区分

分野別研究評価

2 テーマ及び対象分野

医学系（医学）

3 評価方法

書面調査・ヒアリング

4 対応組織

医学研究科点検評価委員会

5 評価資料

1) 分野別研究評価「医学系（医学）」自己評価書

2) 個人別研究活動判定票

3) 研究グループ別研究活動判定票

4) 北海道大学医学部（医学研究科）自己点検評価報告書等

6 評価の結果

平成14年3月に大学等及びその設置者に通知されるとともに、ウェブサイトへの掲載により公表される。

7 評価結果の活用

医学研究科・医学部の教育・研究・管理運営等に活用

Ⅱ 各部局設置の評価委員会等による外部評価

1 薬学研究科・薬学部

1 実施時期

平成13年12月3日（月）

2 目的

管理運営等及び教育・研究活動の現状を自己点検するとともに、学外有識者による検証（外部評価）を受け提言を得る。

3 実施対象（専攻，部門，分野等）

薬学研究科全体

4 実施方法等

1) 検討経緯

点検評価委員会において、実施方法、実施体制等を検討した。

2) 実施方法

外部点検評価委員に対し、事前に自己点検評価報告書及び関係資料を送付し予め検討願ひ、外部点検評価実施日に、概要説明（研究科・学部全体及び各分野）、質疑・討論を行い、併せて施設見学を実施した。

5 外部評価委員

国籍	所 属	職 名	氏 名	専門分野	担当分野
日本	京都大学大学院薬学研究科	教 授	市 川 厚	生化学	評価項目全般
日本	東京大学大学院薬学系研究科	研 究 科 長	桐 野 豊	物理化学	〃
日本	星薬科大学	学 長	永 井 恒 司	薬剤学	〃
日本	前千葉大学薬学部	教 授	中 川 昌 子	薬品製造化学	〃
日本	東京大学大学院医学系研究科	教 授	野 本 明 男	分子生物学	〃
日本	三共株式会社	代表取締役副社長	平 岡 哲 夫	創薬化学	〃

6 外部評価委員の選考方針

生命科学・創薬科学の各領域で先導的な役割を果たしている学識経験者で、大学関係者、企業関係者の中から選考した。

7 外部評価項目

- 1) 管理運営・組織機構及び施設設備
- 2) 教育活動（学部教育）
- 3) 教育活動（大学院教育）
- 4) 研究活動
- 5) 社会的活動
- 6) 国際交流
- 7) 図書及び学術情報

8 外部評価資料

- 1) 自己点検評価報告書（2001）
- 2) 生命科学の最先端へ（2001）
- 3) 生命科学をリードする薬学研究科（2001）
- 4) 薬学部学生便覧（平成13年度）
- 5) 薬学部講義要項（全学教育科目）（平成13年度）
- 6) 薬学部講義要項（専門科目）（平成13年度）
- 7) 大学院薬学研究科学生便覧・講義要項（平成13年度）
- 8) 大学院薬学研究科修士課程学生募集要項（平成14年度）
- 9) 大学院薬学研究科博士後期課程学生募集要項（平成13年度）
- 10) 大学院薬学研究科博士後期課程学生募集要項(外国人留学生特別選抜)(平成13年度)

9 外部評価の結果

取りまとめ中

10 外部評価報告書等の名称及び刊行年月

自己点検・外部評価報告書 2001（平成14年3月刊行予定）

11 実施経費の内容

校費（報告書作成経費等），委任経理金（旅費，謝金）

12 外部評価結果の活用状況

今後の薬学研究科における管理運営等，教育活動及び研究活動に活用する予定。

13 外部評価の感想，反省点，改善点及び今後の予定等

外部点検評価については，取りまとめ次第，反省点，改善点等について検討するとともに，今後の管理運営等，教育・研究活動に反映させる予定。

2 農学研究科・農学部

1 実施時期

平成14年2月19日（火）～平成14年2月20日（水）

2 目 的

大学院重点化終了後3年を経過した専攻から順次，改革の理念・目的及び達成度について自己点検評価を実施すると共に学外有識者による検証（外部評価）を実施する。

3 実施対象（専攻，部門，分野等）

環境資源学専攻

4 実施方法等

- 1) 点検評価委員会において，大学院重点化が実施された順（生物資源生産学専攻，環境資源学専攻，応用生命学専攻）に実施する。
- 2) 外部評価実施要項を制定し，外部評価実施方法等を定めている。
- 3) 大学院改革の全体計画と環境資源学専攻について，改革の理念・目的及びその達成度について自己点検評価を実施する。
- 4) 外部評価委員に事前に自己点検評価報告書及び関係資料を送付し，当該専攻等の状況を把握願ひ，外部評価実施日に評価項目毎の説明・質疑等を行い，また，施設・設備等の調査により行う。

5 外部評価委員

国籍	所 属	職 名	氏 名
日本	(株) 北海道自然学研究所	代 表 取 締 役	石 黒 直 文
日本	独立行政法人 農業生物資源研究所	理 事 長	桂 直 樹
日本	独立行政法人 農業技術研究機構本部	副 理 事 長	稲 葉 忠 興
日本	北海道新聞社	総 務 局 長	渡 辺 藤 男
日本	新潟大学大学院自然科学研究科	研 究 科 長	小 島 誠
日本	東京農工大学	名 誉 教 授	梶 井 功
日本	東京大学大学院農学生命科学研究科	研 究 科 長	林 良 博

6 外部評価委員の選考方針

点検評価委員会において，人格識見高く，かつ，本研究科等の振興発展に関心と理解のある学外者で，大学，研究所，民間企業等の幅広い範囲の中から選考した。

7 外部評価項目

- 1) 大学院重点化に係る改革の理念と目的，組織・機構，専攻と学部の関係，組織・運営体制，教官人事
- 2) 専攻の研究体制
- 3) 教育体制
- 4) 教育・研究環境等

8 外部評価資料

自己点検評価報告書の他、大学院農学研究科・農学部概要、学生便覧、大学院農学研究科学生募集要項等

9 外部評価の結果

取りまとめの上、印刷公表する。

10 外部評価報告書等の名称及び刊行年月

外部評価報告書（平成14年4～5月刊行予定）

11 実施経費の内容

奨学寄附金、校費（報告書作成経費）

12 外部評価結果の活用状況

今後、本研究科・専攻における教育・研究・管理運営面等に活用していくとともに、必要に応じ本研究科の関連する委員会に対し改善事項の検討を付託する予定。

13 外部評価の感想、反省点、改善点及び今後の予定等

来年度は応用生命学専攻の自己点検・外部評価と併せて3専攻の総括を行う。

3 低温科学研究所

1 実施時期

平成13年12月4日（火）～平成13年12月5日（水）

2 目 的

平成13～17年度低温研COE研究プロジェクト

「寒冷圏における大気－雪氷－植生相互作用の解明」の研究計画に対する評価

3 実施対象（専攻、部門、分野等）

低温研COE研究プロジェクト（雪氷学、気象学、水文学、植物生態学、植物生理学、地理学）

4 実施方法等

平成13年3月開催の本研究所点検評価委員会において『COE研究プロジェクト「寒冷圏における大気－雪氷－植生相互作用の解明」の研究計画』に対する外部評価を実施することを決定し、委員候補者を選出。平成13年7月に外部評価委員会を設置。各委員に評価方法の検討を依頼。平成13年12月に開催されたワークショップに各委員が参加し、評価を行った。今後、各委員が評価レポートを作成する。これらをまとめて報告書として公表予定。

5 外部評価委員

国 籍	所 属	職 名	氏 名	専門分野等
合衆国	Water and Environmental Research Center	所 長	Kane,Douglas	水文学
合衆国	Department of Geography,University of Colorado	助教授	Chase,Thomas	気象学
ロシア	V.N.Sukachev Institute of Forest BS RAS	所 長	Vaganov,Eugene	植生地理学
日 本	国立極地研究所	教 授	藤 井 理 行	雪氷学
日 本	総合地球環境学研究所	教 授	福 嶋 義 宏	水文学
日 本	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター	教 授	笹 賀 一 郎	植物生理生態学

6 外部評価委員の選考方針

各分野における世界的権威である外国及び国内の研究者を選考。

7 外部評価項目

研究計画の独創性，実行可能性，意義

8 外部評価資料

ワークショップにおいて発表した資料（OHPなどのコピー）及び要旨集

9 外部評価の結果

平成14年1月に各外部評価委員から評価レポートを提出してもらい，取りまとめる。

10 外部評価報告書等の名称及び刊行年月

寒冷圏における大気－雪氷－植生相互作用の解明

－北海道大学低温科学研究所COE研究プロジェクトと外部評価－（平成14年3月刊行予定）

11 実施経費の内容

諸謝金	135千円
職員旅費	462千円
研究員等旅費	914千円
外国人教師等招へい及び帰国旅費	590千円
校費	472千円
招へい外国人滞在費	159千円
合 計	2,732千円

12 外部評価結果の活用状況

評価レポートに基づき，COE研究プロジェクトの研究計画の再検討を行う。

13 外部評価の感想，反省点，改善点及び今後の予定等

数人の評価委員から「非常に学際的な研究プロジェクトで，興味深いワークショップであった。」旨の意見を頂いた。

今後は，研究プロジェクトの終了後に成果についての外部評価を行う予定である。

4 留学生センター

1 実施時期

平成14年1月～2月

2 目 的

点検評価報告書「柔軟性と変化の時代のために」（平成10年度～平成12年度）を基に，学外有識者による検証（外部評価）を実施する。

3 実施対象（専攻，部門，分野等）

留学生センター全体

4 実施方法等

1) 留学生センター点検評価委員会において，学外の学識経験者による外部評価を行うことを決定。

2) 外部評価委員は，我が国の留学生政策，留学生教育に造詣の深い学識経験者から幅広く選考した。

3) 外部評価委員に対し，点検評価報告書「柔軟性と変化の時代のために」（平成10年度～平成12年度）及びその他の参考資料を送付し，事前の審査等を行う。

- 4) 外部評価委員会は、原則として1回の開催とし、委員会開催当日は、外部評価資料の説明、質疑・応答を行うほか、留学生センターの施設・設備の視察等を行う。
- 5) 各委員から2月末を目途に委員長に評価報告書を提出、委員長が評価の講評（全体評価）を行う。
- 6) 外部評価の結果は、報告書として取りまとめ公表する。

5 外部評価委員

国 籍	所 属	職 名	氏 名	専門分野等
日 本	大阪外国語大学留学生日本語教育センター	センター長	奥 西 峻 介	日本語教育
日 本	慶應義塾塾監局	参 事	岡 林 隆	留学生政策
ドイツ	筑波大学文芸・言語学系	教 授	シュテファン・カイザー	日本語教育
日 本	小樽商科大学国際交流センター	センター長	高 橋 純	道内国立大学
日 本	(財)2002年W杯サッカー大会日本組織委員会	総 務 局 長	西 澤 良 之	留学生政策
日 本	広島大学留学生センター	センター長	二 宮 皓	留学生教育
日 本	東京工業大学大学院理工学研究科	教 授	森 泉 豊 榮	留学生教育
日 本	学校法人北海学園	理 事 長	森 本 正 夫	道内私立大学

6 外部評価委員の選考方針

我が国の留学生政策、留学生教育に造詣の深い学識経験者から幅広く選考した。

7 外部評価項目

管理・運営組織、教育活動、研究活動、対外活動、施設設備、将来構想等

8 外部評価資料

- 1) 北海道大学点検評価報告書「柔軟性と変化の時代のために」(平成10年度～平成12年度)
- 2) 点検評価報告書追加資料(平成13年4月～)
- 3) 北海道大学留学生センター案内
- 4) 北海道大学留学生センター年報(第7号～第9号)

9 外部評価の結果

外部評価終了後、報告書に取りまとめ刊行する。

10 外部評価報告書等の名称及び刊行年月

北海道大学留学生センター外部評価報告書(平成14年3月刊行予定)

11 実施経費の内容

校費(報告書印刷費、郵送料等)、講師等旅費、謝金

12 外部評価結果の活用状況

今後、留学生センターの管理・運営、留学生教育等に活用する。

13 外部評価の感想、反省点、改善点及び今後の予定等

評価の結果が取りまとめ次第、点検評価委員会で検討する。